



GLASS ARCHITECTURE AND GLASS SPACE

ガラスという素材が持つ歴史は長い。その透明性に建築の空間としての質は大きく変化
したと言っても過言ではない。現代ではこのガラスの芸術的発展により、その使用方法はき
ろに多様化されている。

今回の展覧として、ガラスを用いた室内空間を考えた。パーティションとなる2枚ガラ
スの間にレーザー光の照射による虹色が生じ、壁全体からの放射を発生。さらにこの
放射をさらにガラスは、「光の子体」を起こし色に変化する光の模様を発生する。光の再
度により変化するこの模様は、ガラスを用いたパーティションとしての「透明感」と、繊
細な「装飾の透断」の二つの役割を持ち合わせるから、自由自在に空間を定義させる
「スキン・アートのアナーキー」と謳われる今日、ミュージアムレベルに近い室内空間における
「スキン・スペース」も重要な要素ではないだろうか。

